

「リスク社会と防災」

～ 地学・現代社会の教科連携による新しい防災教育のかたち ～

齋藤洋輔・山北俊太郎(東京学芸大学附属高等学校)・加納隆徳(帝京大学)



問題提起

【地学】

- 「災害」に対して危機意識ある？ 震災も忘れ去られている？
- 「防災」を「防災」として教えるのではなく、財政の問題や政策の効果、市民感情などと関連させながら防災について深く考えることができる。

【現代社会】

- 行政はどこまで市民の命を守るべき？
- 社会における具体的な問題を取り上げながら「合意形成」や「政府の役割」について理解を深めることができる。

コラボレーション授業「リスク社会と防災」

【目的】

- (1) リスク社会と防災というテーマを通して、政府の果たすべき役割について関心をもち、
- (2) 防災対策についての話し合いを通して、社会を維持していくために合意形成が必要であることを理解する。
- (3) リスク社会と防災について、実際にどのような問題が生じているのかを追究する意欲をもつ。

【期日】平成26年5月27日(火)～6月27日(金)(3時間)

【対象】2年生 4クラス

授業づくり

キーワード: ロールプレイにおけるリアリティーの追究

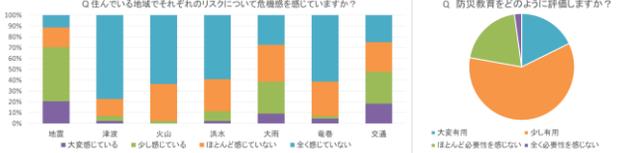
準備① 環境・土木関係のコンサルへの取材

- ・雪害対策で行政と市民がうまく合意形成した事例
- ・住民説明会の実際、NIMBY問題の実際



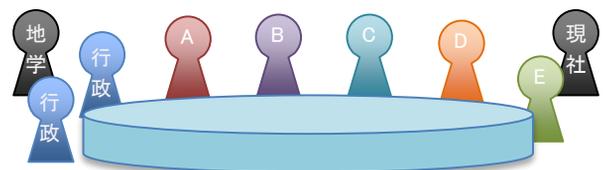
準備② 宮城・静岡などの防災行政や住民説明の現況の調査

キーワード: 生徒の持っている災害リスクの調査



ロールプレイの構図

- ◆ 市民のロールの一例
- ・市民A: 38歳、海から近いところに家族で同居。
- ・市民B: 33歳、一人暮らし。結婚の予定なし。

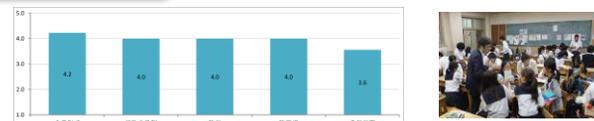


- ◆ 行政役(地学教員担当)
- ・教員が準備した資料をもとに防潮堤建設に向けて合意形成を目指す。
- ・市民から受けそうな質問を想定してロールプレイの設定を練る。
- ◆ 市民役(現代社会教員担当)
- ・ロールに合わせてどのような意見が出そうか想像し、譲れない一線を決めて、ロールとして発言する。
- ・市民は自分の言いたい意見を主張していい？

授業での揺さぶり

- ・合意形成に至るプロセスには問題はない？
- 多数決で決めても良いか？ 少数派の意見は？
- ・市民の提案は現実的か？ 問題性はないか？
- 海に近い住民から多くの税金を取れば良い？ 山に住む住民は負担なし？
- ・大きな政府(行政)がよい？ 小さな政府(行政)がよい？
- 市民の命を守るのは行政の仕事？

授業の教育効果



「授業を受けたことでそれぞれの分野に関して関心が増えましたか？」
→ 多くの分野で高い(最高5)関心を得る。

「東北スタディツアー2014」

【目的】

- (1)被災地における津波被害の調査や防潮堤の見学を通して東日本大震災について改めて学ぶ。
- (2)被災後のまちづくりに関して市民の方々と行政側の両方の意見や考えを聞くことにより合意形成の現場の実際を知る。
- (3)さらに、東日本大震災とその復興における問題や課題から、東北地方だけでなく他の地域の今後の防災計画や合意形成に活かせる点を検討する。

【期日】平成26年10月11日(土)～13日(月)

【対象】1年生・2年生 希望者20名

ツアーの概要

南三陸町(志津川地区)

仮設生活をされている市民の方に話を伺った

- ◆ 震災当時の混乱
- ◆ T.P.+8.7mの防潮堤建設と高台移転
- ◆ 復興遺産としての防災庁舎

問題の構造

- ◆ 解体を望む町民と保存を望む国や県

気仙沼市(大谷・小泉地区)

防潮堤建設に反対の立場をとる2人の市民の方に話を伺った。

- ◆ T.P.+9.8mの防潮堤建設が決まらない大谷
- ◆ T.P.+14.7mの防潮堤建設が進む小泉
- ◆ 海と共に生きる漁民の町 大谷
- ◆ 畑作で兼業農家が多い小泉

問題の構造

- ◆ 行政と市民の間の感情的な意見対立
- ◆ 少ない住民に対する費用対効果
- ◆ 復興予算の期限
- ◆ 村社会での議論の難しさ

東松島市

HOPE(東松島みらいとし機構)の職員の方から話を伺った。

- ◆ 行政・市民・民間が協力して町づくり
- ◆ T.P.+7mの二線堤を建設する計画や高台移転も進む。

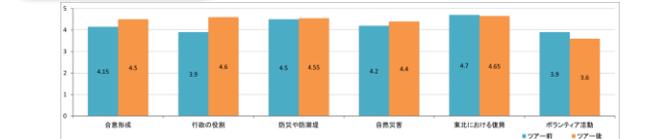
東北大・災害科学国際研究所IRiDeS

平野准教授(災害復興実践学)「防潮堤とまちづくりのコンフリクトやその実践的解決」、菅原助教授(低頻度リスク評価研究)「津波について」

ツアー後の活動

ツアーの行程・合意形成における問題点の分析・私たちの考える解決策を3枚のポスターにまとめ、SSH発表会で成果を発表した。

ツアーの教育効果



「ツアーを受けたことでそれぞれの分野の関心が増えましたか？」
→ 合意形成や行政の役割、自然災害に関する関心が増加
※ 市民の政治参加・合意形成などに対して具体的な意見を持てるようになる。

課題(今年度の活動のテーマ)

- ◆ 目標と評価の再確認
- ・「リスク社会と防災」と「東北スタディツアー」の目的をコンピテンシー育成の観点から確認し、評価をパフォーマンス課題をルーブリックに照らし合わせて図る形にする。
- ◆ 2年目のメリット
- ・昨年度の経験を生かし、生徒の継続性・訪問先の継続性を意識した指導を行なう。